

商品名 プラミペキソール塩酸塩LA錠0.375mgMI「オーハラ」 医薬品基本情報

薬効	1169 その他の抗パーキンソン剤	一般名	プラミペキソール塩酸塩水和物徐放錠
英名	Pramipexole hydrochloride LA MI OHARA	剤型	徐放錠
薬価	20.90	規格	0.375mg 1錠
メーカー	大原薬品	毒劇区分	(劇)

プラミペキソール塩酸塩LA錠0.375mgMI「オーハラ」の効能・効果

パーキンソン病

プラミペキソール塩酸塩LA錠0.375mgMI「オーハラ」の使用制限等

1. 高度腎機能障害、透析、クレアチニンクリアランス30mL/min未満、本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、クレアチニンクリアランスが30mL/min未満	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	禁止
2. 腎機能障害、クレアチニンクリアランスが30-50mL/min、クレアチニンクリアランス≥50mL/min、50mL/min>クレアチニンクリアランス≥30mL/min	記載場所	用法・用量
	注意レベル	注意
3. 幻覚又はその既往、精神症状又はその既往、妄想又はその既往、重篤な心疾患又はその既往、低血圧症、腎機能障害	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	注意

プラミペキソール塩酸塩LA錠0.375mgMI「オーハラ」の副作用等

1. 低ナトリウム血症、低浸透圧血症、尿中ナトリウム排泄量増加、高張尿、痙攣、意識障害、抗利尿ホルモン不適合分泌症候群、SIADH、悪性症候群、発熱、無動無言、高度筋硬直、不随意運動、嚥下困難、頻脈、血圧変動、発汗、血清CK上昇、筋肉痛、脱力感、CK上昇、血中ミオグロビン上昇、尿中ミオグロビン上昇、横紋筋融解症、急性腎障害、AST上昇、ALT上昇、LDH上昇、γ-GTP上昇、総ビリルビン上昇、肝機能障害	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明
2. 突発的睡眠、幻覚、幻視、妄想、せん妄、錯乱、激越	記載場所	重大な副作用
	頻度	5%未満
3. 傾眠、浮動性めまい、悪心、末梢性浮腫	記載場所	その他の副作用

4. 過敏症状、蕁麻疹、網状皮斑、腰痛、CK上昇、めまい、緊張亢進、舌麻痺、運動過多、ミオクロヌス、声が出にくい、知覚減退、唾液増加、苦味、眼のちらつき、視力低下、薬剤離脱症候群、無感情、不安、うつ、疲労感、発汗、疼痛、神経過敏、気分高揚感、徘徊、暴食、健忘、異夢、病的性欲亢進、不穏、抑うつ気分、気分変動、性欲減退、失見当識、ねばけ様症状、胃潰瘍、鼓腸放屁、イレウス、プロラクチン低下、成長ホルモン上昇、血糖値上昇、房室性期外収縮、心拍不整、尿蛋白陽性、排尿頻回、手がピリピリする、脱力感、胸痛、肺炎、自発陰茎勃起

記載場所	その他の副作用
頻度	頻度不明

5. 皮膚そう痒症、発疹、多汗、脱毛症、アレルギー性皮膚炎、筋痙縮、背部痛、筋肉疲労、筋力低下、筋骨格硬直、平衡障害、注意力障害、頭痛、過眠症、嗜眠、記憶障害、錯感覚、鎮静、振戦、ジスキネジア、オンオフ現象、回転性めまい、体位性めまい、ジストニア、失神、味覚消失、異常感覚、口内乾燥、起立性低血圧、高血圧、霧視、視覚障害、複視、羞明、眼精疲労、不眠、悪夢、不安、強迫性購買、錯覚、パニック発作、病的賭博、食欲亢進、食欲不振、早朝覚醒、過食、体重増加、攻撃性、自殺念慮、便秘、腹部不快感、腹痛、消化不良、胃炎、嘔吐、体重減少、上腹部痛、腹部膨満、おくび、口内炎、γ-GTP上昇、脱水、低血圧、動悸、心室性期外収縮、尿閉、勃起不全、倦怠感、不快感、易刺激性、転倒、ほてり、口渇、しゃっくり

記載場所	その他の副作用
頻度	5%未満

6. 呼吸困難

記載場所	その他の副作用
頻度	0.1%未満

7. めまい、立ちくらみ、ふらつき、起立性低血圧、悪性症候群、薬剤離脱症候群、無感情、不安、うつ、疲労感、発汗、疼痛、病的賭博、持続的にギャンブルを繰り返す状態、病的性欲亢進、強迫性購買、暴食、衝動制御障害、妊娠率低下、生存胎子数減少、出生子体重低下、プロラクチン分泌抑制、乳汁分泌抑制、幻覚、精神症状、悪心、嘔吐、過度の鎮静、運動過多、激越、低血圧、網膜変性増加

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

プラミペキソール塩酸塩LA錠0.375mgMI「オーハラ」の相互作用

1. 薬剤名等： カチオン輸送系を介して腎排泄される薬剤

発現事象	ジスキネジア・幻覚等の副作用が増強
理由・原因	双方あるいはいずれかの薬剤の腎尿細管分泌が減少し、腎クリアランスが低下

投与条件	-
指示	注意

2. 薬剤名等： 鎮静剤

発現事象	作用が増強
理由・原因	-

投与条件	-
指示	注意

3. 薬剤名等： アルコール

発現事象	作用が増強
理由・原因	-

投与条件	-
指示	注意

4. 薬剤名等： ドパミン拮抗剤

発現事象	本剤の作用が減弱	投与条件	-
理由・原因	本剤はドパミン作動薬であり、併用により両薬剤の作用が拮抗	指示	注意

5. 薬剤名等：抗パーキンソン剤

発現事象	ジスキネジア・幻覚・錯乱等の副作用が増強	投与条件	-
理由・原因	相互に作用が増強	指示	注意



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』

Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.